


「うーむ書けない。」などとスランプの作家風に原稿取りから逃げていたわけですが、正直言って旅の思い出を講談調でやるのもあまり得意でない私のことですから、ごく個人的に4年間をふりかえってお茶を濁させてもらいたいと思います。

さて、今年的一年生諸君、夏合宿はいかがなものでしたか。私の場合、やはり最初の夏合宿は最も印象深いものでした。私は3人班(3年と2年の先輩と同行)で北海道を宗谷岬から釧路をぬけて ~~えりも岬~~ まで南下というちょっと変わったコースで走ったのです。このときは、先輩にくっついて行くのに一生懸命という感じで、(なにしろ自転車で長距離走ったことなどまるでなかったのですから) フロントバッグの地図を見ながら、「あと何キロかな、5kmで15分だから、えーと、まだ1時間はかかるな。」などとホヤキながらあとを追いかけていたわけです。どうやらこのときからすでに人にくっついて走る習性がついてたらしいですね。

ところで 話は変わりますが、普通走っているとき、皆さん何を考えているのでしょうか。坂を登っているときは、誰でも同じだと思う。つまり「あのコーナーをまわればきっと峠が見えるのだ。あともう少しだよ。」そして、「あゝ、まだだめか。いや、次のコーナーこそ……」とは具合で、たまに「おっと、この分なら前の坂を抜けるかな。」とか「あゝもうだめ、抜けるなら先へ行けよ、

ピッタリくっつかれちゃかなわないぜ」というところじゃないか
と思うんだよね。

下りは景色を見ながら、ブレーキングとコーナリングを楽しみ
ながらというわけなんだけど、平地で距離をかせがなきゃならな
い時など困るんですよね。こういうとき何を考えていけばいいの
か。「ただ前の車のマッドガードを眺めてたんじゃどうにもいけま
せん。前に歌など唄いながらリズムをつけてたら結構調子が出た
こともありましたが、そんなとこなのでしょうか。夕食の献立な
ど考えるのもまあまあ、てとこですかね。さて話が食事のことに
なつたので話をもとに戻しますと、このときの夏合宿は料理はほ
とんど先輩が好きな様にしたというか、まあ3人なのでスナリ
いっていたわけです。3年の人の好みで、スパゲティ・ミートソース
(ミート・ソースはかん詰を使う)がやたらに多かったのですが、
だいたい簡単なもので済ましていたわけです。この簡単な食事の
イメージがいつの頃から変わったかということと春合宿なのですね。
春合宿というのは、わりと距離をかせがなくて観光旅行みたいな
感じになるわけで、結構手間をかけて食事を作れるということや
人が多いせいもあり、てどうも豪華になる傾向があるらしいのです。
しかし近頃は夏合宿でも結構色々作るらしいですね。

また、大めしぐらいの話は色々伝えていると思うけれど、こ
ういう記録などもサイクリング部奇人伝として残していつてほし
いし、これからも挑戦していつて欲しいものです。あと 

恐怖のジャンケンポンも忘れてはいけないのですが私の場合この
事に関してはあまり触れたくありません。

え〜風邪をひいて、頭もいつもより更に鈍っており、だらだら
と取りとめが無くなってきましたし、疲れてきましたのでこの辺で
パンを置かしてもらいます。

サイクリング部と共に4年間の大学生活を
送れたことをとてもよかったですと思っています。
(遅) (よくやった)

部員の皆さん、せいぜいエネルギー(下図参照)を発散させ
てください(今のうちですぞ) そんなこと言わないで、ねね
そして素敵な思い出をつくられることをお祈りします。

〜この図はまちがっているだろうか??〜

